

北海道ヤングケアラーに関する実態調査 < 概要版 >

《 小学生、大学生、小学校に対する調査 》

令和4年 8月

北海道保健福祉部子ども未来推進局子ども子育て支援課

目次

調査の概要	1p
1. 児童生徒に対する調査	
①ヤングケアラーの認知度	2p
②自分がお世話をしている家族の有無（ヤングケアラーの割合）	3p
③お世話を必要としている家族	4p
④お世話の頻度、費やす時間	5p
⑤学校生活等への影響	6p
⑥相談の有無と相談しない理由	7p
⑦周りの大人に支援してほしいこと	8p
2. 小学校に対する調査	9p
①ヤングケアラーという言葉の認知度	
②ヤングケアラーと思われる子どもの有無	
③ヤングケアラーへの対応	
④必要と考えるヤングケアラー支援の内容	

調査の概要

調査目的

ヤングケアラーについては、家庭内のデリケートな問題であることや、本人や家族に自覚がないことなどから、支援が必要であったとしても表面化しにくく早期発見や支援に繋がりにくいといった課題がある。調査を通じて、「ヤングケアラー」の認知度の向上を図るとともに、昨年度実施した、道内中学生、高校生の調査に引き続き、道内の小学生、大学生、小学校における家族の世話の状況やそれに伴う日常生活への支障、支援のニーズ等を把握し、ヤングケアラーの早期発見と支援策の検討を行うための資料とすることを目的に実施した。

調査対象

- ・道内の公立小学校、義務教育学校(札幌市を除く。)に通う小学5年生、小学6年生 約5万人
- ・道内の4年制大学に通う学生 約7万人
- ・道内の公立小学校、義務教育学校(札幌市を除く。) 773校

調査方法

- ・無記名式のアンケート調査で、内容は令和3年度に実施された国の調査を参考にし、北海道ケアラー支援有識者会議で検討。
- ・WEB環境(調査概要等に記載されたURL、QRコードから案内)から任意で回答。
- ・小学生：各学校を通じて児童に調査概要を配布して依頼。
- ・大学生：各学校を通じて電子メールなどを活用し、学生に調査を依頼。また、QRコード付きのポスターを掲示。
- ・小学校：各学校へ調査概要を送付して依頼。

調査期間

令和4年7月12日(火) ~ 令和4年7月27日(水)

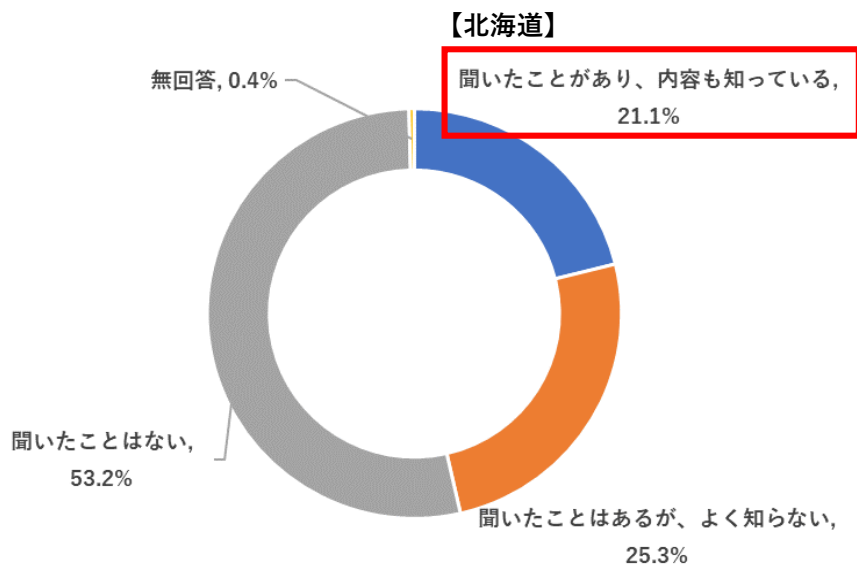
回答状況

	調査対象	有効回答数	回収率
小学生	48,576	14,063	29.0%
大学生	69,854	1,041	1.5%
小学校	773	759	98.2%

1-① ヤングケアラーの認知度

- ヤングケアラーについて、「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した割合は、小学生で21.1%、大学生で63.1%だった。

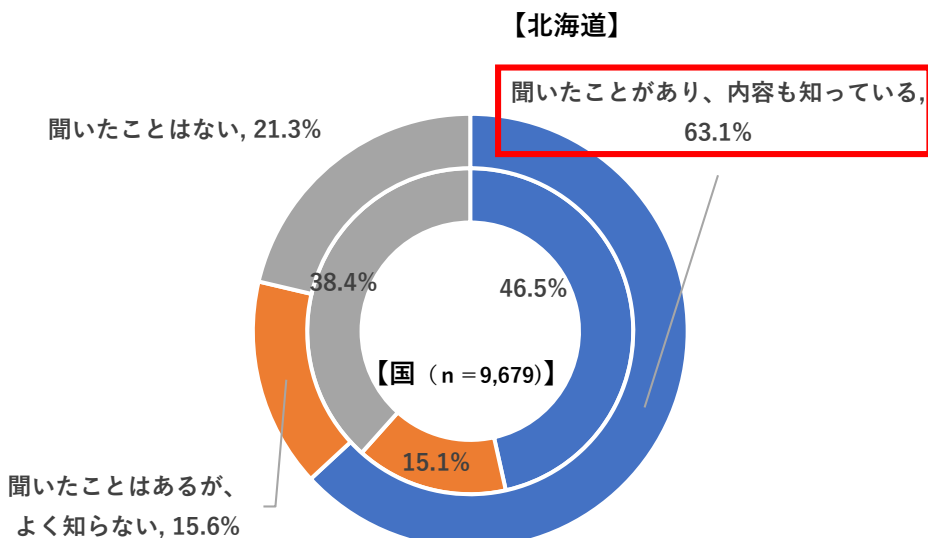
【小学生】



※国において小学生の認知度調査は未実施

道 (n=14,063)

【大学生】

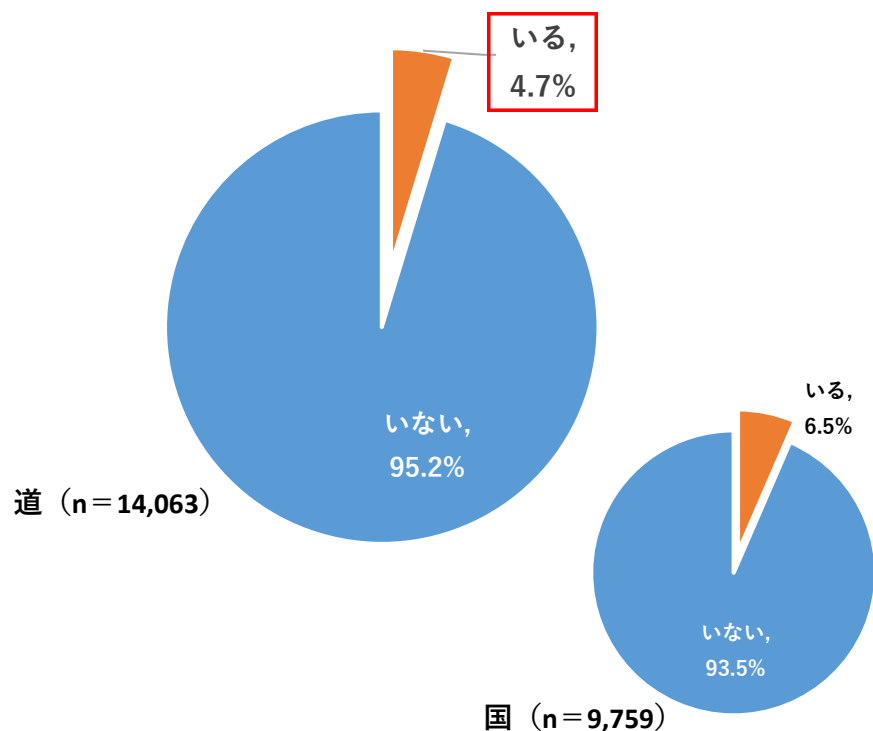


道 (n=1,041)

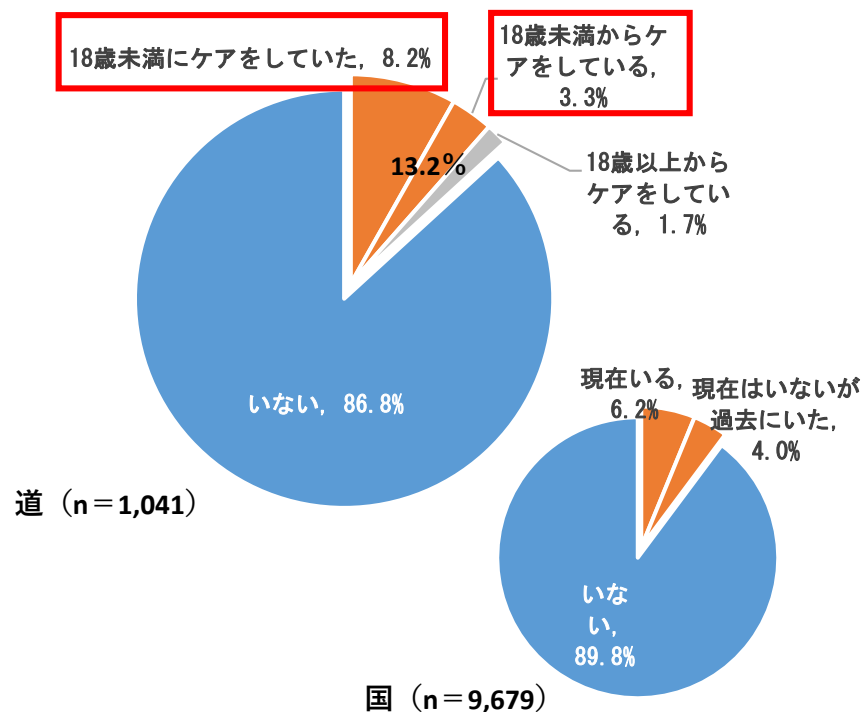
1-② 自分がお世話をしている家族の有無（ヤングケアラーの割合）

- 小学生の4.7%がお世話をしている家族が「いる」と回答。
- 大学生は13.2%がケアの経験があり、うち「過去（18歳未満）にケアをしていたことがある」8.2%、「18歳未満の時から現在もケアをしている」3.3%となっている。

【小学生】



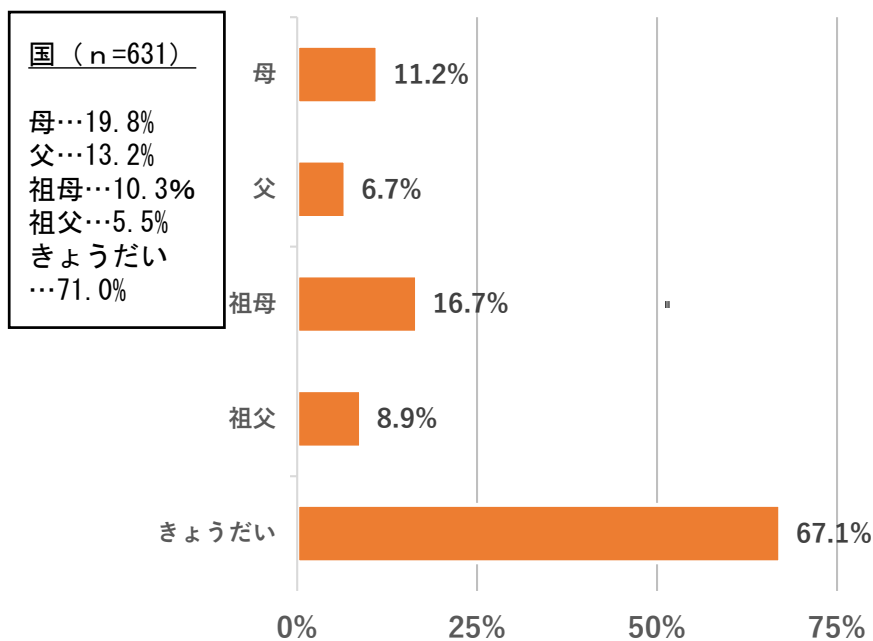
【大学生】



1-③ お世話を必要としている家族

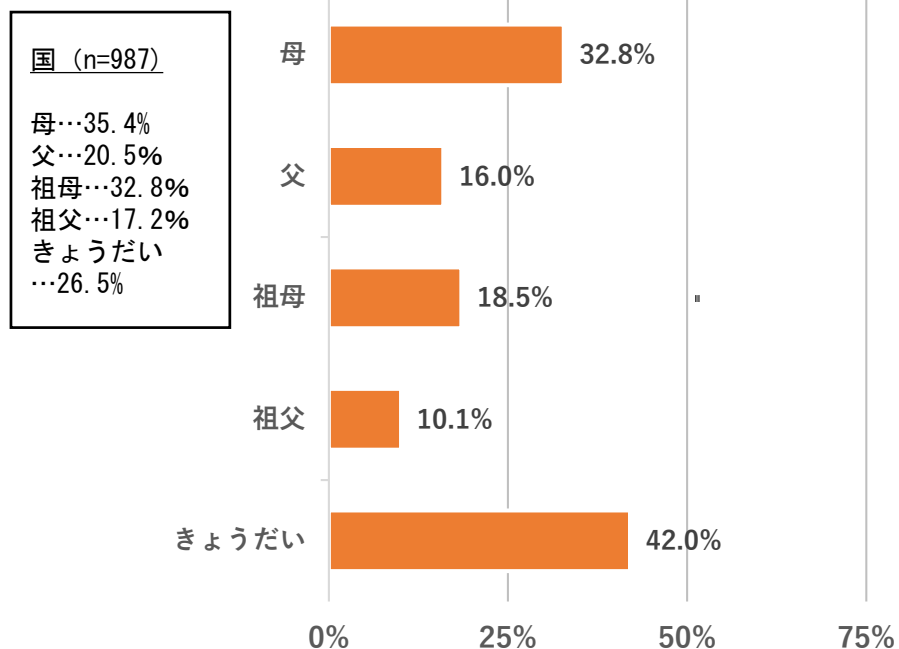
- 小学生は「きょうだい」の割合が高く、大学生は「きょうだい」に加えて「母親」の割合も高い。

【小学生※複数回答あり】



道 (n=654)

【大学生※複数回答あり】



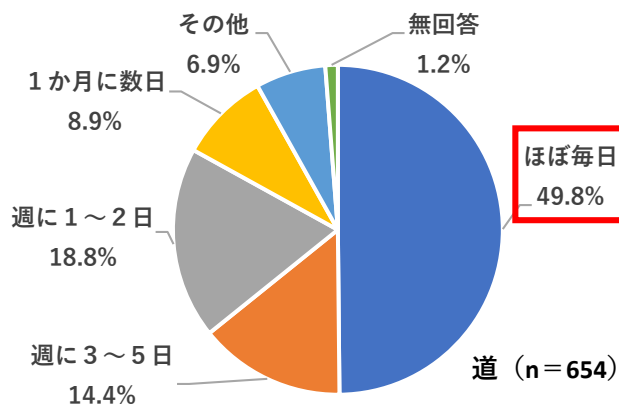
道 (n=119)

1 - ④ お世話の頻度、費やす時間

- 世話の頻度は、小学生も大学生も「ほぼ毎日」が約半数を占めた。
- 世話に費やす時間（平日）は、具体的な時間数を回答いただいた中では、小学生では1時間から2時間程度、大学生で1時間から3時間程度が多い。

世話の頻度

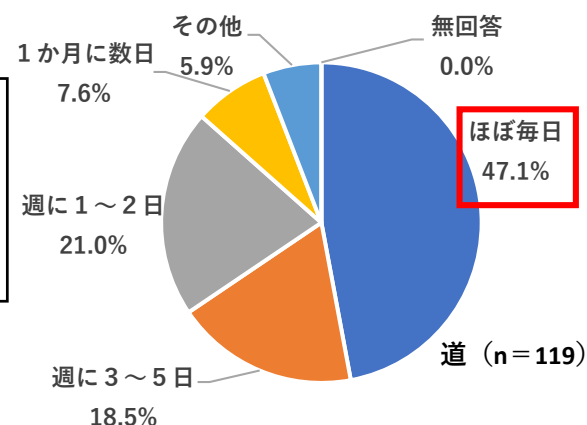
【小学生】



国の調査 (n=631)

ほぼ毎日…52.9%
週に3~5日…16.0%
週に1~2日…14.4%
1か月に数日…5.5%

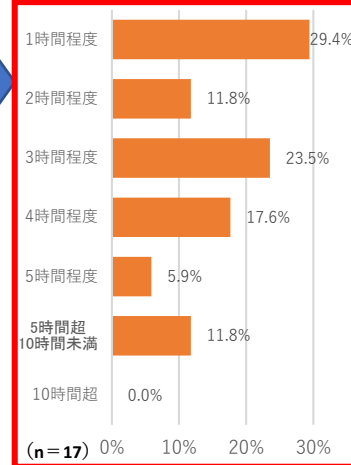
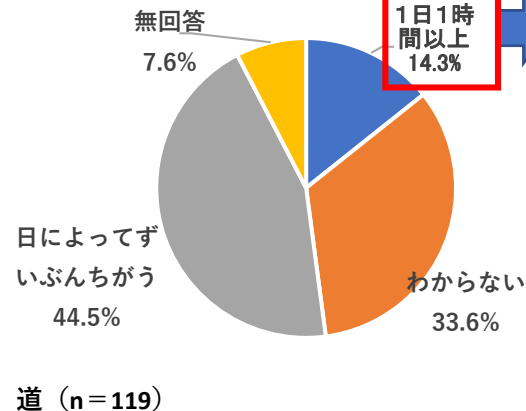
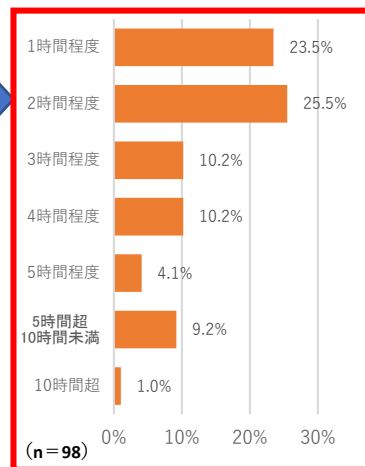
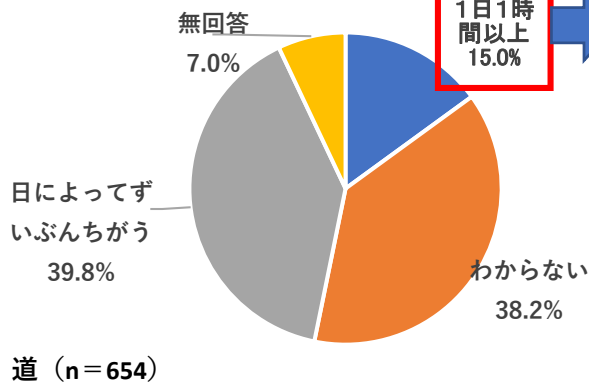
【大学生】



国の調査 (n=987)

ほぼ毎日…45.9%
週に3~5日…21.5%
週に1~2日…14.9%
1か月に数日…15.4%

世話に費やす時間（平日）

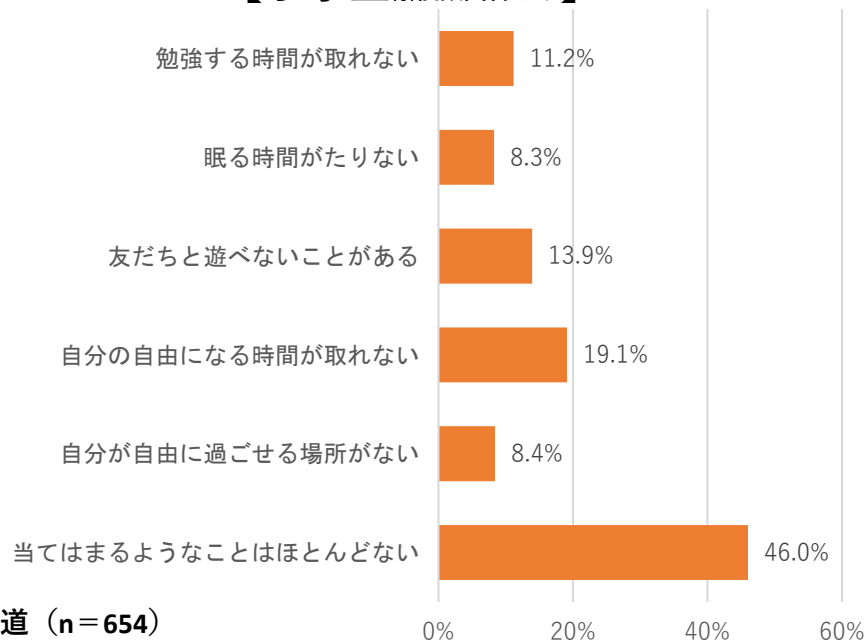


【児童生徒に対する調査】

1－⑤ 学校生活等への影響

➤ 小学生では「自分の自由になる時間が取れない」が多く、大学生では、「学費等の制約や経済的な不安があった」が最も多かった。

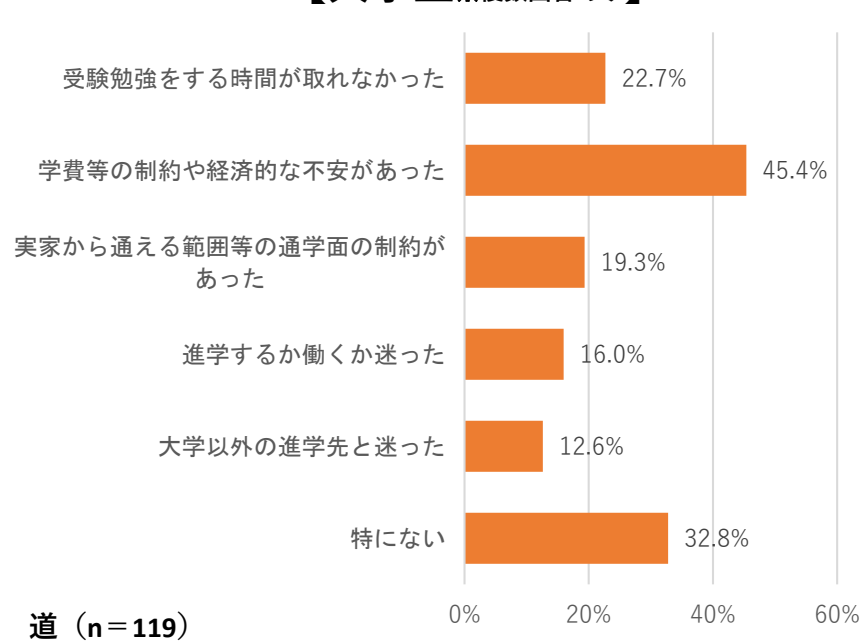
【小学生※複数回答あり】



国の調査 (n=631)

宿題など勉強する時間がない…7.8%
眠る時間がたりない…6.7%
友だちと遊ぶことができない…10.1%
自分の時間が取れない…15.1%
特にない…63.9%

【大学生※複数回答あり】



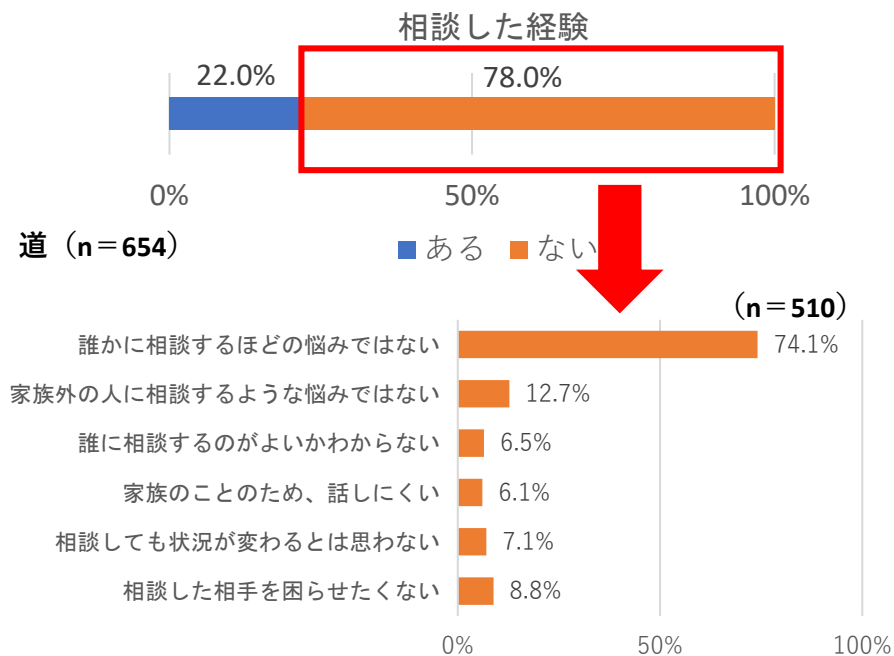
国の調査 (n=633)

受験勉強をする時間が取れなかった…21.6%
学費等の制約や経済的な不安があった…26.7%
実家から通える範囲等の通学面の制約があった…13.1%
進学するか働くか迷った…12.2%
大学以外の進学先と迷った…7.1%
特にない…48.0%

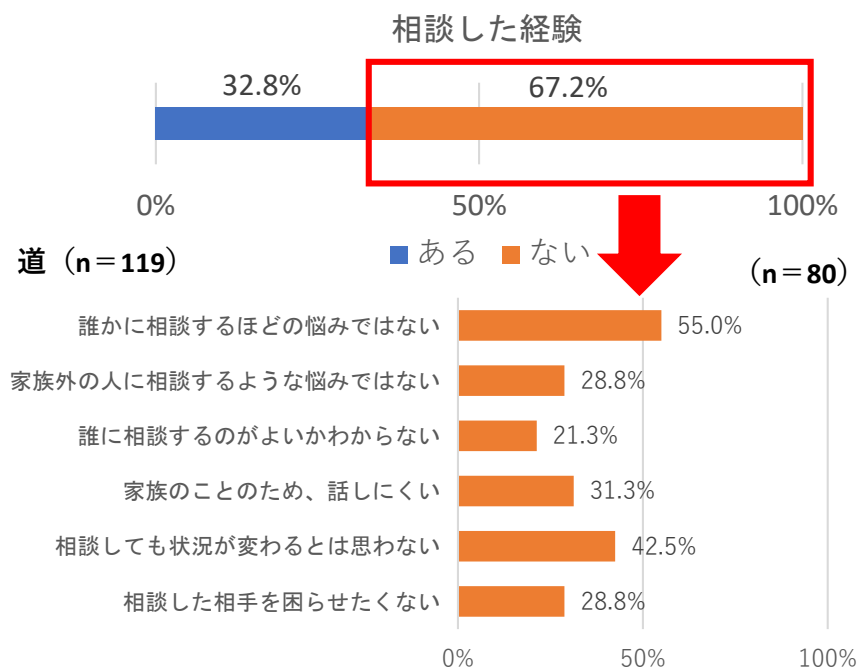
1 - ⑥ 相談の有無と相談しない理由

➤ 小学生では8割近く、大学生では約7割が、周囲に相談した経験が「ない」と回答。その理由について、小学生、大学生のいずれも「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も多い。

【小学生】



【大学生】



国の調査

相談した経験 (n=631)
ある…17.3%、ない…76.1%

相談しなかった理由 (n=480)
相談するほどの悩みではない…72.7%
誰に相談するのがよいかわからない…4.2%
家族のことを話したくない…5.4%
相談しても何も変わらない…13.3%

国の調査

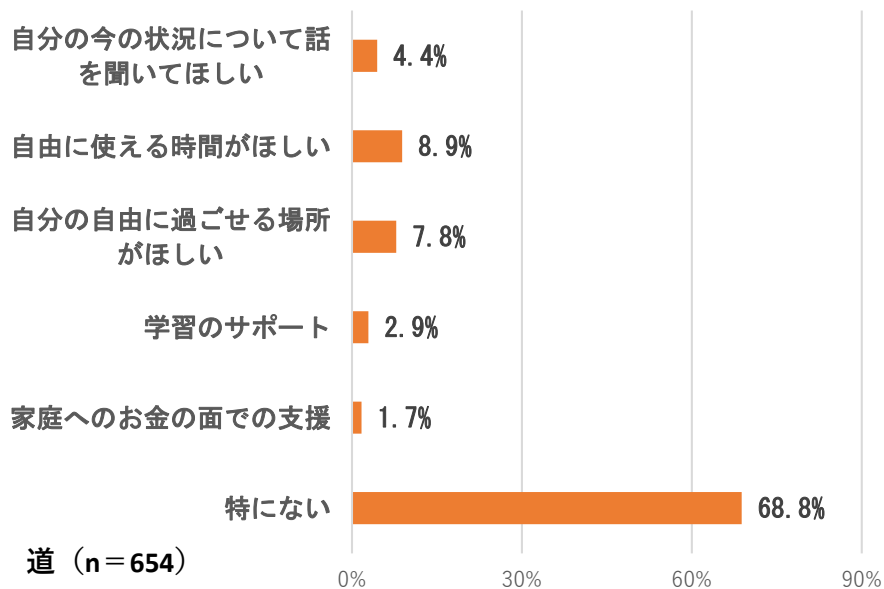
相談した経験 (n=987)
ある…33.4%、ない…66.6%

相談しなかった理由 (n=657)
誰かに相談するほどの悩みではない…52.5%
家族外の人に相談するような悩みではない…20.2%
誰に相談するのがよいかわからない…12.5%
家族のこのため話しにくい…19.3%
相談しても状況が変わるとは思わない…33.0%

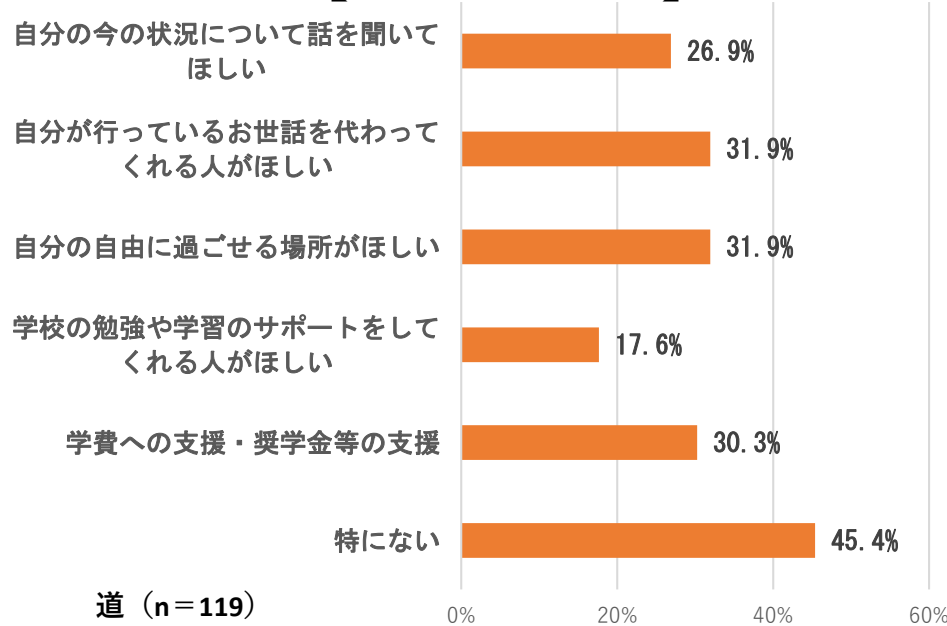
1-⑦ 周りの大人に支援してほしいこと

➤ 求める支援について、小学生も大学生も「特にない」が最も多いが、大学生は「世話を代わってくれる人がほしい」「自分の自由に過ごせる場所がほしい」など、具体的な支援を求める回答も多い。

【小学生 ※複数回答あり】



【大学生 ※複数回答あり】



国 (n=631)

- 自分のことについて話を聞いてほしい…11.9%
- 自由に使える時間がほしい…15.2%
- 勉強を教えてほしい…13.3%
- お金の面で支援してほしい…5.4%
- 特にない…50.9%

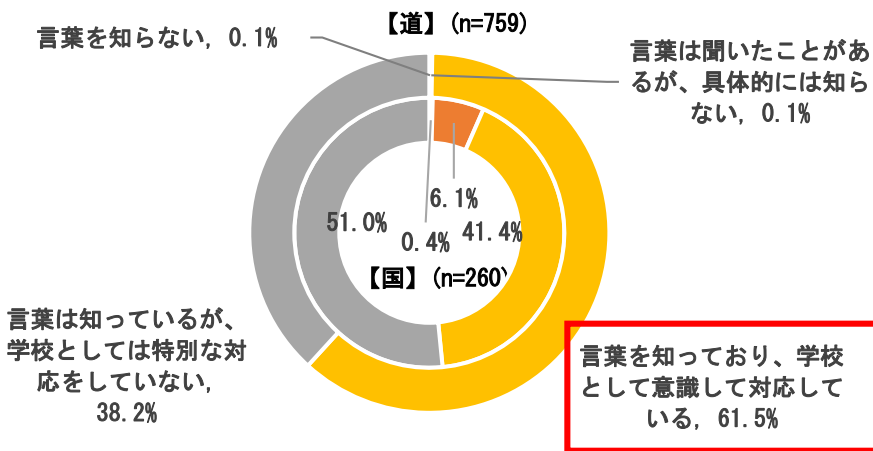
国 (n=987)

- 自分の今の状況について話を聞いてほしい…21.7%
- 自分が行っているお世話のすべて又は一部を代わってくれる人やサービスがほしい…9.9%
- 学校の勉強や学習のサポート…18.5%
- 学費への支援・奨学金等の支援…28.3%
- 特にない…26.2%

【小学校に対する調査】

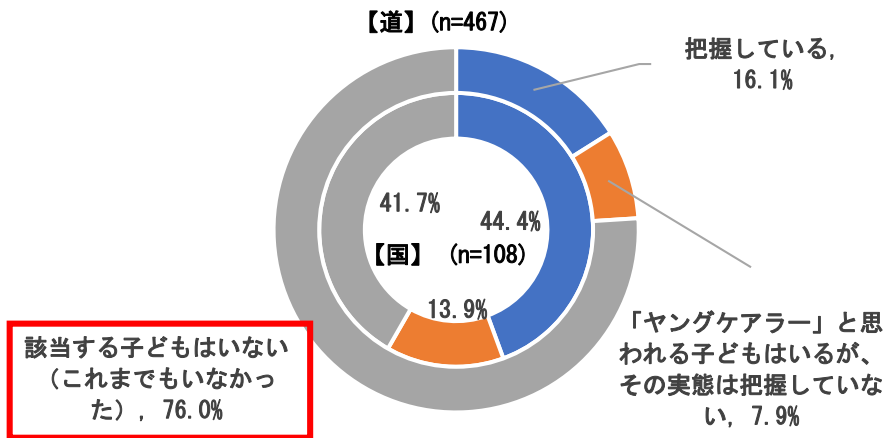
2-① ヤングケアラーという言葉の認知度

- 「言葉を知っており、学校として意識して対応している」が最も多い。



2-② ヤングケアラーと思われる子どもの有無

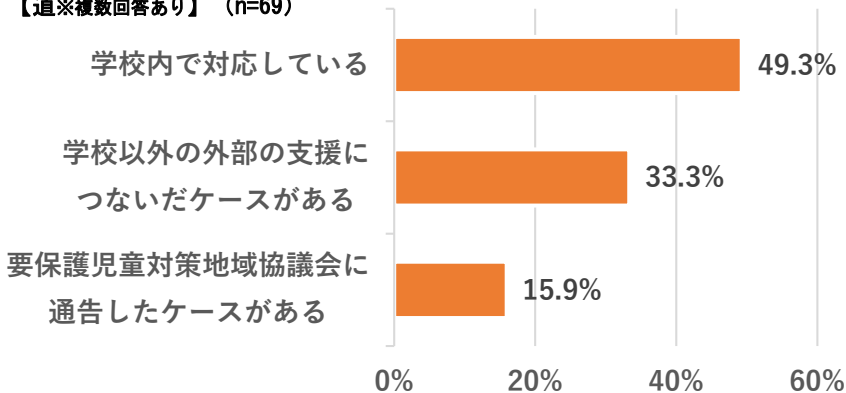
- 「ヤングケアラーと思われる子どもはいない（これまでもいなかった）」と回答した学校が多い。



2-③ ヤングケアラーへの対応

- 「学校内で対応している」が最も多い。

【道※複数回答あり】 (n=69)



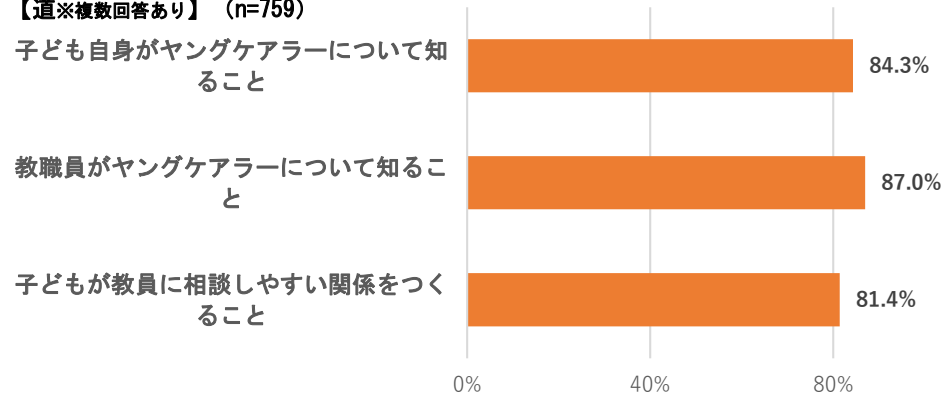
国の調査 (n=89)

学校内で対応している…42.7%
 学校以外の外部の支援につないだケースがある…33.7%
 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある…25.8%

2-④ 必要と考えるヤングケアラー支援の内容

- 「教職員がヤングケアラーについて知ること」が最も多い。

【道※複数回答あり】 (n=759)



国の調査 (n=260)

子ども自身がヤングケアラーについて知ること…75.0%
 教職員がヤングケアラーについて知ること…84.7%
 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること…76.6%

※国：令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 ヤングケアラーの実態に関する調査より